

CBCから骨髄へ：血球分析装置を起点とした新しい骨髄検査フローを考える

水田 駿平

兵庫県立尼崎総合医療センター 血液・輸血・細胞遺伝子検査室 主査

骨髄検査は造血器疾患の診断治療に重要であり、用手法による血球算定、標本作成と細胞分類を行う。本セミナーでは新たに発表されたBMモードで検査可能な有核細胞数・巨核球数、粗分類から骨髄検体処理の効率化が期待されること、また現在の当院運用を共有しBMモードのデータやスカッタグラムを活用した症例を紹介する。